

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400393		
法人名	株式会社 育川		
事業所名	グループホーム北陽 (2階 弥山ユニット)		
所在地	島根県出雲市武志町755番地2		
自己評価作成日	平成30年 1月 15日	評価結果市町村受理日	平成30年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2017\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd](http://index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成30年 2月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リビングから四季折々の北山の景色を眺め、木のぬくもりある空間にて気楽に過ごしていただけるよう、また利用者様らしさを大切にしています。月毎の行事を計画しており特に夏祭りはご家族様を招いて一緒に食事をし、職員による余興を楽しんでいただいています。利用者様のベストショットを載せた便箋に日頃の状況を添えて毎月ご家族様に手紙を出しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に沿ったユニット目標を作成してその人らしい生活が送れるように支援している。夏祭りは家族と一緒に食事をしたり、誕生会は保育園児が訪問したり、敬老会や七夕会には地域の人が参加し交流を図っている。両ユニットの情報共有出来る体制を作り、対応や言葉使いについてもその都度話し合い統一したケアに努め、チームワークも向上している。また、研修や委員会活動でスキルアップを図りサービスの向上に取り組んでいる。「事業所で、利用者さんと共に」という職員の希望で、職場結婚式が行われた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識した取り組みがおこなえるように、理念を玄関やスタッフルームに掲示し、職員の名札の中には理念を明記している。	掲示をしたり、職員の名札の中に理念を明記して共有化を図りながらユニットの目標を作成し、理念に沿った支援が出来るように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方に定期的に来て頂いたり、散髪は地域の理髪店を利用している。近隣の保育園からは行事に訪問して頂き交流を行っている。	ボランティアとして地域の人が生け花や絵手紙作りに訪問したり、誕生会には保育園児が訪問し、敬老会や七夕会に地域の人が参加するなど交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの職員を増やし、認知症の方についての理解を地域に向けて活動できるように取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域の方との間で意見交換をおこなうそこでの貴重な意見を課題としてサービスの向上に繋げている。また行事に参加していただき利用者様との交流をはかっている。	活動状況を報告し、敬老会や七夕会を見てもらい意見やアドバイスを受けてサービスの向上に活かしている。管理者は他施設の運営推進会議に参加してサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1度、入退所者情報を市に報告している。事故等があれば速やかに市に報告書を提出している。分からない事があれば相談している。	運営推進会議や日常的に利用者の状況を報告し相談をしたり助言を受け連携して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯は職員が少ない為に玄関の施錠をおこなっている。必要性についても職員間や運営推進会議の場でも話している。	研修を行い身体拘束の内容を理解して取り組んでいる。委員会でも毎月テーマを決めて話し合い、ユニット会議でも職員同士で話し合い統一したケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行ったり職員間で見過ごされることがないように、互いのケアを確認、指摘し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員へ人権・権利擁護の研修参加を促している。今後も研修や勉強会で制度を学ぶ機会を増やし、権利擁護に関する制度の理解を深めていけるよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス利用開始前後もご家族の不安が軽減されるよう心がけている。ご家族の疑問には納得できるよう丁寧に説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に一度、市からの相談員を受け入れており利用者様の思いや要望を聞き取っていただいている。聞き取りの内容は職員にも分かるようにし運営に反映させるよう努めている。	利用者からは普段から話をして要望を聞き、家族とも何でも話せる関係作りに努めている。面会時に様子を伝え要望を聞いたり、市の相談員の聞き取りを職員で共有出来るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議、リーダー会議、全体会議を開き職員の意見や提案に対して話し合いをおこなっている。個人面談で管理者との話し合いの機会を設けている。	個人面談やユニット会議で意見を聞く機会を設け、日常的にも職員が意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。職員の意見を受け止め、利用者にとって良いことは積極的に行う姿勢で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	委員会活動などで職員1人1人に役割があり向上心をもって働けるような環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がもち回りで社内研修を毎月おこなっている。施設の課題にそった勉強会をしている。新人職員には育成シートを使い研修している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との合同研修や祭りにボランティアとして参加しており交流や意見交換を通じてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていると不安なことなどを本人、家族等より情報を集め、入居時には安心していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを大切にしながら、困っていることや不安なことなど少しでも軽減できるように対応し、家族との信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、必要と思われるサービスが考えられれば、提案や助言をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活のなかで、できる事はしていただき、役割や自己決定をもって生活できるような関係を築き本人の思いに共感するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報共有を持つ為に、毎月近況を書いた写真入りの手紙送付している。面会時には日頃の様子を伝えたり生活面での協力をいただいたりしながら関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常生活のなかで、家族や知り合いとの繋がりを大切にする為に来訪された際は話しやすい環境づくりを心がけている。	家族の協力を得て職員も同行して自宅へ帰ったり、働いていた店に行くなど、利用者の思いを受け止め関係継続の支援に努めている。家族と調整して一時帰宅を増やしたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で、利用者同士の関係性を把握し、お互いが認め合って生活できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、今後も相談や支援をおこなえるよう努めていきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしに対する希望や意向を把握し、生活上の課題は職員、家族と話し合い、本人主体の生活が送れるよう支援している。	日常の会話の中で思いを聞き、利用者の希望する生活に繋がるように支援している。困難な場合も家族から情報を得たり、表情や仕草などから思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にできる限りの生活歴や生活環境等の情報を収集し把握に努めている。日々の会話の中からも情報を集め職員で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を記録に残し現状を職員間で共有できるように取り組んでいる。特に心身状態の変化については職員間でこまめに情報伝達、共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や希望を把握し、本人のできる事を介護計画に反映できるように本人、家族、関係者と話し合いながら取り組んでいる。必要に応じて情報の更新をおこなっている。	両ユニット共に毎月カンファレンスで利用者の状態を話し合い、プランの内容を検討している。サービス担当者会議を行い、本人や家族の意見を聞いて次のプランに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの様子、健康状態を記録に残し、一人ひとりにあった個別ケアを実践できるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、カンファレンス等の話し合いの場を通じて柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園や薬局、ボランティアなどの交流・協力のもと暮らしを楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、受診又は往診に来ていただいており状態に変化があれば早急にかかりつけ医に報告・連絡・相談をおこないながら医療との連携を密にしている。総合医療センターと連携しており夜間や休日の緊急受診に対応できるよう努めている。	希望のかかりつけ医を受診し、毎月、受診又は往診がある。医師との連携を密にし、医療会議を開き利用者の身体状況について情報共有出来るように取り組んでいる。緊急時にも対応してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間、看護師と相談・協力できる体制を整えている。また利用者様と契約しているファーマシー薬局を交えて月に1度医療会議を開き利用者様の健康状態について情報共有できる取り組みをおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報共有と病院関係者との情報交換や今後の見通しなどの相談を密にとり合い退院に向けて本人、家族に不安がないよう取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に家族に当事業所は看取りをおこなっておらず、食事を経口摂取できなくなった場合も退所していただく対象になる事を説明している。重度化した場合は今後の方針を速やかに家族と相談し必要なサービスについて助言・提案していけるよう取り組んでいる。	重度化した場合の対応について入居時に説明している。現在は看取りの支援は行っていないが、今後に向けて職員アンケートを実施したり勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が応急手当普及員の資格を取得し、実際に講師となって応急手当や心肺蘇生法について施設内で勉強会をおこなう取り組みをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署の協力を得て定期的な避難訓練を実施している。また水害発生時に施設内に留まる事を想定し必要な物資等について委員会で話し合っている。	年2回避難訓練を実施し、マニュアルの確認を行っている。訓練には地域の人にも参加してもらっている。水害時の対応について委員会で話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時は本人不在の時もノックし、声かけや確認をして入室している。また職員一人ひとりが人格を尊重しプライバシーに配慮した対応を心がけている。	人格を尊重し、一人ひとりに合わせた言葉かけや対応をしようとしている。入浴時のプライバシーへの配慮や、居室に入る時にはノックをし、トイレ誘導時の声かけや介助方法にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が物事を決定する声かけをするのではなく利用者が自ら自己決定できるような働きかけを意識して支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には利用者の自己決定にてその日を過ごしていただいているが職員が意向や希望を聞きながらその人らしい日々になるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に服を選んでいただいたり、散髪等も本人の希望に沿うよう心がけている。その人らしい身だしなみやおしゃれができるような配慮や声かけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けを職員と一緒にこなすようにしている。外食に出たり食事前にはメニューを伝え楽しみが増えるよう努めている。	副菜は外注だが、米とぎやみそ汁の具の野菜を切ったり、片付けなど利用者の力が発揮出来るように支援している。寿司やラーメンを出前したり、干し柿やおはぎ作りを一緒に行い楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握するために記録に残し、状態に変化があれば食事形態の変更等を検討しながら栄養バランスの維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず一人ひとりの口腔状態を把握しながら口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿のパターンを記録に残し、一人ひとりの排尿パターンを把握し時間やタイミングをみて声かけ、誘導をして支援している。夜間はオムツやポータブルの使用もある。	利用者の排泄パターンを知り、状況や希望に合わせて言葉かけや介助方法を工夫して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の解消のために腹部マッサージや食物繊維、乳製品を使用するなどトイレでの自然排便が促せるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴であるが柔軟に対応し、できる限り利用者の希望に合わせた時間に入浴している。使い慣れたシャンプーや石鹸を使用される方もいる。	希望の時間帯に支援している。無理強いしないで利用者の思いを理解して柔軟に対応するように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣を大切にしながら日中は意欲的に、夜間は気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の協力のもとに一人ひとりの薬の目的・副作用についてアドバイスをもらっている。薬剤師との連携を密にとり利用者の状態を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ができる事、やりたい事を大切に日々の生活で役割や楽しみが持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や買い物、ドライブ等に積極的に出かけている。年間計画を立て花見や紅葉などの四季を感じていただけるよう支援している。	散歩や日光浴、買物、ドライブなど戸外に出かけられるよう支援している。計画を立てて季節の花見などの外出をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭の管理は事務所でおこなっている。本人が欲しいもの必要なものがある時は都度対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族や知人からの電話や手紙は本人へ取り次いだり、本人の希望があれば家族への電話等の支援をおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調整や湿度の管理をおこなったり、共有スペースには行事の写真や利用者の作品を展示している。季節感のある花を飾り居心地の良い空間作りに努めている。	食堂や廊下には習字や季節感のある飾り、行事の写真などを飾っている。集える場所や一人でゆっくり過ごせる場所を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の椅子に座り日向ぼっこをしたりうたた寝したり、暖かい日はお茶をしたりする。また所々に椅子やソファを置き個々に落ち着ける環境を作るよう取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の環境を引続き継続できるだけ以前の生活環境を変えず過ごせるよう努めている。また家族の写真や本人の馴染みのあるものを飾るなどしている。	タンスやテーブル、イス、写真や思い出の品を飾ってその人らしい居室となるよう配慮している。入居時に家族の協力を得て自宅と同じような間取りになるように環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの「できること」「わかること」を把握し活用しながら日々の生活を過ごしていただいている。		